新機能および変更された機能

ヘッドセットとアクセサリのインベントリダウンロード

[ヘッドセット（Headsets）] メニューカテゴリは、Cisco Unified Communications Manager ユーザインターフェイスで **[ヘッドセットとアクセサリ（Headsets and Accessories）]** に名前が変更されました。

この機能を使用すると、管理者は Unified Communications Manager ユーザインターフェイスから展開内のヘッドセットとアクセサリの詳細レポートを CSV ファイルにダウンロードできます。

詳細については、Cisco Unified Communications Manager 機能設定ガイドの「ヘッドセットとアクセサリの管理」の章を参照してください。

Manager Assistant からの Oracle JRE の削除

Oracle Java Runtime Environment（JRE）は、Cisco Unified Communications Manager Assistant プラグインに含まれなくなりました。

Cisco Unified Communications Manager Assistant クライアントを新しいバージョンにアップグレードする前に、次の手順を実行します。

- マシンに現在インストールされている Cisco Unified Communications Manager Assistant クライアントをアンインストールします。
- 32 ビットまたは 64 ビットの Windows プラットフォームに JRE をインストールします。

詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能設定ガイド』を参照してください。

認証ベースのプロキシによるスマートライセンス登録

この機能により、Unified Communications Manager のライセンスコンポーネントは、HTTP/HTTPS プロキシ経由の認証済み接続を使用して、クラウドベースの Cisco Smart Software Manager と通信できます。

Webex アプリケーションの SSO リダイレクト URI

SSO リダイレクト URI 機能により、外部ブラウザを使用して SSO を実行するソフトクライアント）Cisco Jabber/Cisco Webex アプリ）を、ブラウザが Cisco Jabber/Cisco Webex アプリバックエンド サービスにサインインできるように、SSO リダイレクト URI を使用してブラウザによってクロス起動できます。

Webex クライアントの埋め込みブラウザのサポート

この機能により、Cisco Jabber/Webex クライアント組み込みブラウザサポートのセキュリティが強化されます。

次の機能が拡張されています。

- RFC7636 により「認可コードの横取り攻撃」から保護します。
- Webex クライアントまたは Unified Communications Manager の使用中に SSO が有効になっている場合、改善された通話エクスペリエンスにより、二重ログインを回避できます。

モバイルおよびリモートアクセスデバイス登録のパフォーマンスカウンター

新しいパフォーマンスカウンターが Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool に導入され、モバイルおよびリモートアクセスモードで Unified Communication Manager に登録された登録済み Cisco Webex アプリおよび Cisco Jabber デバイスを追跡します。これにより、管理者は、Unified CM に登録されているモバイルおよびリモートアクセスモードのデバイスの数を把握できます。トラブルシューティングの Perfmon データログを有効にすると、システムはこれらの新しいカウンターの統計を自動的に収集し、Perfmon ログに保存します。

新しいカウンターの詳細については、『Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide』を参照してください。

UDS の機能拡張

UDS には、次の拡張機能が導入されています。

- 電子メールによる UDS 一括検索により、Cisco Jabber は、電子メール属性を使用してリクエストをバッチで送信し、UDS と Cisco Tomcat サービスによる CPU 使用率の上昇を防ぎます。
- UDS が拡張され、リモートクラスタ間でのユーザのホームクラスタの検出が改善されました。これは、Cisco Jabber のログインの失敗を回避し、データセンターの障害やシャットダウンが発生した場合に地理的な冗長性を確保するのに役立ちます。

証明書の同期とクラスタ間定期同期

IM and Presence サービスは、クラスタ間同期プロセスの一部として証明書の同期を実行します。この機能により、クラスタ間定期同期中に新しいサービスパラメータ Certificate Sync が導入され、管理者は **Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Administration ユーザインターフェイスからクラスタ間定期同期**の一部として証明書同期を無効または有効にできます。

証明書同期機能は、次のオプションを導入します。

- **証明書同期の実行（Perform certificate sync）**：これは **[クラスタ間定期同期中の証明書同期（Certificate Sync during Inter-Cluster Periodic Sync）]** サービスパラメータのデフォルト値です。**[クラスタ間定期同期中の証明書の同期（Certificate Sync during Inter-Cluster Periodic Sync）]** サービスパラメータが **[証明書の同期を実行する（Perform certificate sync）]** に設定されていて、証明書がクラスタ間ピア間で同期されていない場合、データと証明書を同期するために強制手動同期操作が必要です。
- **証明書の同期を実行しない**：ICSA 同期中に証明書の同期を無効にするには、管理者が **[クラスタ間定期同期中の証明書の同期（Certificate Sync during Inter-Cluster Periodic Sync）]** サービスパラメータを **[証明書の同期を実行しない（Do not Perform Certificate Sync）]** に設定します。

（注） クラスタ間定期同期中に、証明書の同期に関連する展開でパフォーマンスの低下または高い CPU スパイクが発生した場合は、この機能を使用できます。

クラスタ間同期プロセスの一部として証明書の同期を無効または有効にする方法の詳細については、IM and Presence Service の設定および管理ガイドの「クラスタ間ピアの設定」の章を参照してください。

Expressway による IM and Presence ストリーム機能/サービスアドバタイズメントの改善

IM and Presence Service は、Cisco Expressway のモバイルおよびリモートアクセスを介して接続するクライアントへの XMPP ストリーム機能/サービスのアドバタイズメントをサポートします。

この新しい機能により、IM and Presence サービスのバージョンが混在する展開（たとえば、11.5(1)SU8 上の一部のクラスタと 12.5(1)SU3 上の一部のクラスタ）をCisco Expresswayと連携させ、割り当てられている IM and Presence サービスのホームクラスタに基づいて、Cisco Jabber クライアントが適切な機能を検出できるようになります。

このメカニズムを機能させるには、バージョン 11.5(1)SU9 または 12.5(1)SU4 以降を実行しているクラスタ間メッシュに、少なくとも 1 つの IM and Presence クラスタを搭載した Cisco Expressway が必要です。

現在の IM and Presence サービスのバージョンの組み合わせによっては、次の表に示す情報に従って、Expressway で FCM サービスフラグを使用してプッシュ通知機能を有効または無効にする必要があります。

```
xConfiguration XCP Config FcmService: On/Off
```

（注） Apple Push Notification Service（APNS）は、FCM サービスフラグステータスの影響を受けません。

表 *1 : Expressway CLI* の観点からのソリューションマトリックス：*Android* プッシュ通知（*FCM*）のコマンドの有効化/無効化

混合バージョンの IM and Presence クラスタ	Expressway X12.7の FCM フラグの予期されるステータス	Comment
任意の 11.5(1)SUと 12.5(1)SU2 以下	オフ	Android Push（FCM）はサポートされていません。
11.5(1)SU8（またはそれ以下）または 12.5(1)SU2（およびそれ以下）と 12.5(1)SU3	オフ	Android プッシュ（FCM）はサポートされていません
11.5(1)SU8（またはそれ以下）または 12.5(1)SU2（およびそれ以下）と 12.5(1)SU4（およびそれ以上）	オフ	12.5(1)SU4 以降のバージョンでサポートされる Android プッシュ（FCM）

混合バージョンの IM and Presence クラスタ	Expressway X12.7の FCM フラグの予期されるステータス	Comment
11.5(1)SU9（またはそれ以上）または 12.5(1)SU4（およびそれ以上）と 12.5(1)SU3	オン（On）	バージョン 12.5(1)SU3 以降でサポートされる Android プッシュ（FCM）
11.5(1)SU9 以降（12.5(1)SU4 以降）	フラグは不要です （Expressway 12.7 は新しい検出メカニズムに完全に依存しています）	12.5(1)SU4 以降のバージョンでサポートされる Androidプッシュ（FCM）

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。